

○13番(伊藤文博君)

新政会の伊藤文博です。

通告書に基づき一般質問を行います。今日は3点について質問いたします。

1、糸魚川ジオパーク事業の平成22年度における展開についてであります。

昨年8月に世界ジオパークに登録された糸魚川ジオパークも、今年が最も大切な年となります。

昨年は、認定間もないことから少々の遅れは許容されてきたようですが、新年度は本格的な取り組みが求められ、市民からも市外からも大きな期待が寄せられていると考えなければなりません。新年度の取り組みの具体的内容について伺います。

- (1) 観光案内に関わるハード・ソフトの充実はどのように図るのか。
- (2) 市民や市内商業者、企業向けの啓発は。
- (3) 市外へ向けてのPR方法は。
- (4) 各種民間事業者との連携は。
- (5) 庁内横断的な連携による職員の取り組みは。

2、職員の意識改革についてであります。

職員の意識改革の必要性が語られて久しいものがあります。なかなかその効果が現れてこない現状には、取り組む姿勢の甘さが感じられます。職員の意識改革には、市長の強い姿勢と指導力が必要であるということの基本にして、次の点について伺います。

- (1) 市長は、職員の意識改革についての必要性をどのように考えているか。
- (2) 就任以来、どのような方法で職員の啓発を行ってきたか。
- (3) 職員のモチベーションを上げるための現行制度にはどのようなものがあるか。又は今後の取り組みとしてはいかがか。

3、「日本一の子どもを育てる」についてであります。

前回の一般質問でも取り上げておりましたが、前回は主にこども課について聞いておりますので、今回は次の項目について聞かせていただきます。

平成22年度の重点目標に、明日の糸魚川市を担う「日本一の子どもを育てる」を挙げています。次の点について伺います。

- (1) 「日本一の子どもを育てる」の意味についての庁内共通認識は。
- (2) 今後の教育へのてこ入れ、教育費の増強についてはどう考えているか。
- (3) 教育体制の強化は、どのように図っていくのか。また、幼稚園、保育園の保育士体制は十分か。
- (4) 教育のICT化効果についてどのように考えているか。

- (5) 電子黒板の活用に向けた取り組みについて、その後具体的に計画されたと思うがいかがか。
- (6) 教員がICTを効果的に活用する教育効果と当市における課題は。
- (7) 児童生徒がICTを活用する教育効果と当市における課題はどうか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目、観光案内の充実につきましては、ハード面では、今年度に引き続き誘導標識の充実、各ジオサイトの解説板等の整備を行ってまいります。

ソフト面では、ジオパーク振興プランの作成に取りかからなくてはならないと考えております。また、パンフレットを作成したり、道の駅、パーキングエリア、糸魚川駅等で配置をするほか、各ジオサイトのガイドブック、リーフレットの作成や、糸魚川駅前観光案内所の機能強化、定期観光バス運行の増便、ガイド養成、2次交通の確保などを予定いたしております。

2点目の市民や市内業者、企業向けの啓発につきましては商工会議所、商工会、観光協会、市民団体等と連携をとりながら、出前講座や学習会などを実施してまいります。

3点目の市外向けPR方法につきましては、引き続き東京駐在所を設置し、首都圏での旅行関係者、出身者会等へPRを行うほか、旅行情報誌、並びに新聞、テレビなど、マスコミへの情報提供を行い、情報発信をしてまいりたいと考えております。

また、観光紹介用のDVDの作成も計画をいたしており、4点目の各種民間事業者との連携につきましては、現在ロゴマークの使用等での連携を依頼いたしておりますが、交流人口拡大プランに基づく民間との連携施策についても、積極的に進めてまいりたいと考えております。

5点目、庁内横断的な連携による職員の取り組みにつきましては、新設する交流観光課が中心的な役割を果たす一方、市が行うすべての事業についても、ジオパークの活用を意識した取り組みとして進めるとともに、引き続き職員研修等を活用してジオパークの理解促進を進めてまいりたいと考えております。

2番目の1点目、職員の意識改革の必要性につきましては、職員一人一人が、市民が主体であるという認識を常に持つことが重要であり、そのための意識改革が必要と考えております。

2点目の現在までの取り組みであります。職員に対しては機会あるごとに啓発を行っており、定例部課長会議においても市民サービスの質の向上を図るため、まず指導的立場にある部課長が先頭になって、職員の能力を引き出すような職場環境をつくるように指示をいたしております。また、

各種の職員研修を実施し、職員の職務遂行能力の向上と市民サービスの向上のための意識改革に努めております。

8番目、モチベーションを上げる取り組みであります。職場内で活発に情報交換ができる雰囲気づくりを最優先にするとともに、自学学習研修など意欲のある職員を育成する環境整備も行っていきたいと考えております。今後も人事考課制度の本格導入により、職員一人一人が資質向上と市民サービス向上の意識改革を図り、モチベーションを上げられるよう取り組んでいきたいと考えております。

3番目の日本一の子どもを育てるについての質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

竹田教育長。〔教育長竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

3番目の質問にお答えいたします。

1点目、日本一の子どもを育てるの意味につきましては、市長が本定例会初日の施政方針で述べたとおり、一人一人の個性を生かして、その能力を最大限に伸ばすことであり、成人した後も糸魚川で生まれ育ってよかつた実感できる環境づくりであるととらえております。

日本一を目指すというスローガンのもと、家庭、園・学校、地域が指導や応援を重ね、熱意を持って子どもの教育に携わる子育て環境を整えてまいります。このことについて今後庁内で共通認識を持って取り組んでいくよう、子ども一貫教育方針の内容理解とともに指導と働きかけをしてまいります。

2点目につきましては、市の教育課題の解決に向けた取り組みについて、費用対効果など総合的に検討しながら優先順位をつけて、積極的に進めてまいりたいと考えております。

3点目の教育体制の強化につきましては、4月からスタートするこども課を含む教育委員会の新たな体制での業務分掌や人的配置について、業務の推進状況や新たな課題を検証しながら、組織の調整や強化を図ってまいります。

保育士体制につきましては、現状では正職員より臨時職員の方が多く状況であり、年齢構成にも偏りがありますことから、今後は計画的な採用により体制を整えながら、未満児や障害児に対しましても、さらに手厚い人員配置をしてまいりたいと考えております。

4点目の教育のICT化効果につきましては、子どもの情報活用能力の育成、一層のわかる授業の実

践、校務の効率化と教育現場の多忙化解消の3つの効果を期待しているところであります。

5点目の電子黒板の活用につきましては、新年度に6回のICT活用研修会を予定しております。また、学校教育研究会視聴覚部会でも、授業実践を通じた研修を計画しております。

6点目、教員のICT活用の効果と課題につきましては、導入当初は活用になれるため多少煩雑にはなりますが、その後は教材作成の時間短縮と校務の効率化が図られ、教員の多忙化解消に子どもと向き合う時間の確保ができるようという効果を期待しております。一方、教材や学習にかかわる資料が不足しており、近隣他市との連携が必要と考えております。

7点目、児童生徒のICT活用の効果と課題につきましては、メディア環境に囲まれた子どもたちは、ICTを活用することで学習に対する興味、関心を高め、学力向上に大きな期待を持つことができます。また、コンピューターを通して、情報活用能力を身につけていくことも期待しております。

一方で、子どもの情報活用のスピードに対応して、教職員が情報モラル教育を十分に行えるかが課題であると考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

観光案内について質問します。

まず、観光案内所ですが、今、観光協会の観光案内所と、それから地方の元気再生事業を利用して行われているサテライトオフィスがあります。観光木安内所は、ジオパークによる交流人口の拡大にとって大変大きな役割を担うであろうと。駅前にはバスの案内所もないんですね。その中で、じゃあ観光案内所がどこまで役割を担えばいいかということを考えていくと、逆に、もう何から何まで扱えなければいけない。そうなったときに施設はどうするのか。サテライトオフィスは3月で閉じるということですね、政権がかわって補助金制度がなくなったということ。さあ、施設をどうされますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

それでは、まずジオパークの推進の22年度の全体のお話をさせていただいてから、案内所の件のお話をさせていただきたいんですが、まずジオパークについて22年度は、市長の3つの柱のうちの一つという形になっております。そのために前年度、ジオパークの推進といった事業費については、おおよそ当初予算で4,000万円を計上いたしました。今年度につきましては非常に厳しい財源で、実質的に特殊なものを除けば、横ばいの予算を組んだところでございますけれども、約5割増しの6,000万円を計上しております。その中で市として実施するもの、それから国県及び各経済団体、あるいは業界の代表者が加盟するジオパーク協議会といったものがございまして。

そこに対する負担金といたしまして、前年度当初予算では150万円、そして世界認定の式典も含めまして300万円を予算計上して実施したわけですが、ことしはこのジオパーク協議会といったところに、約3倍強の1,000万円を予算づけしております。

そういった中で、まずサテライトオフィスがなくなると、1年限りの補助であるということがありますことから、このジオパーク協議会の方といろいろ協議をしながら進めていかなきゃならないし、また、今後王国館の理解もいただくという手続は必要なのでございますが、市といたしましては、現在の観光協会における案内所を多少スペースを広げるといったようなことをして、そこにさらにジオパークの人員をできれば強化していくといった方向で、関係のところと協議をしてまいりたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、人員の強化の話もしてもらったんで、それも含めて聞きますけど、今の観光協会の案内所はカウンター方式で、サテライトオフィスがどちらかというとオープンスペース。やっぱり人が集まるところはオープンスペースでなきゃならんと思うんですが、それについて何か考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

市としましても非常にサテライトオフィスが、お客様にいろいろなものの展示物や資料が見やすいということを把握しておりました。それでできれば、王国館の理解を得られれば、できる限りス

ペースを欲しいなということもございます。

そういった中で一応、今現時点では事前に中に入っている方々、あるいは王国館との相談をしているところでございます。そういった中で今現在はちょっとなかなか、そのスペース確保の詰めができていませんが、なかなか広いスペースというところまでは、まだまだ了解を得ておりません。そういった中で当面は、今ある観光協会の近辺を広げることによって、いわゆる機能強化を図っていききたいというふうに考えております。

また今後、関係するところの理解を得られれば、また別の方法ができれば、私どもの当初の希望の方へいくことができれば、そういった方向でもまた今後考えてはいきたいと思いますが、当面は今現行の観光協会の付近でスペースを広げて、人も充実したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番

(伊藤文博君)

サテライトオフィスを3月いつぱいで開める段階になって、今そんなことを言ったら遅いですよ。もう今の時点でかなり詰まっていなきゃだめですね。理解が得られれば何とかって、理解を得られてないという話をしている。決まってないことは言えないでしょうから、それも含めての答弁だと思いますけど、もう少し早い対応というのはいできないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

今ほど吉岡課長の方でお話申し上げましたけれども、補足するという意味で発言させていただきます。

今ほど申し上げましたように観光協会の案内所のあるところにジオパーク、あるいはジオサイトの案内機能もあわせ持つというような形でスペースを広げ、人的な強化もするという事で観光協会、あるいはヒスイ王国館の方と協議調整中でございます。ただ、まだ決定していない状況でございます。今後、調整協議を行いながら理解をいただいて、ちょっと広いスペースはなかなか取れないというような今協議の中では話をさせていただいておりますけれども、あそこの場所を若干広げ

るという形でのスペース、あるいは機能の強化をしていきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

協議中だからこそ、今ここで話しておかなきゃいけないということになるんですね、決まってからでは遅いですから。さっき言ったオープンスペースでなきゃならんということについては、考えの中に入っていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕..

○商工観光課長(金子裕彦君..)

オープンスペースの確保についても話をしておりますけれども、ちょっとどこの場所に、どう取れるかというのは、現在の段階では、まだ協議中の段階でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

考えに入れて交渉してるということですね。ぜひ実現をしてもらいたいというふうに思います。人的なことですけど、人数だけじゃないですよ。どういう人がそこにいるのかということと、それから、またそこに市がどのようにかかわるのか、人的な面でどのようにかかっていくのかについてお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕..

○企画財政課長(吉岡正史君..)

まだ完全という形では詰めたわけではございませんけれども、いわゆるジオパークに非常に精通している、例えば今のガイド協会の方々とかというようなジオパークをよくわかっている人、それから親切といいますか、もてなしの心を持って人といったような方々に当たりまして、人員配置をしていきたいなというふうに考えております。

○13番(伊藤文博君)

市はどのようにかわるのか...

○企画財政課長(吉岡正史君)

市につきましても当然観光協会、あるいはジオパーク協議会といった形で支援をしたり、あるいは加盟したりしているわけですので、私どももそこに例えば巡回をして、どんなような状況になっているのか、あるいはお客様の声がどういうふうになっているのかは、しっかり情報把握はしていきたいと。そういった中で、もしお客様の満足を得られないようなことがあれば、私どもも改善に向けて、関係者と一緒になって取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

上越でいう観光コンベンションセンター的なものにできないのかというのが、やっぱり大きな課題だと思うんですよ。市の職員もそこにいる、それから観光協会の人もある、ボランティアさんもいる。そういう中で現場で直接いろいろ日常的に協議をしながら、市の方にまたいろんなものを上げてきて、市長の方にいろいろ課題提示をしていきながら、ジオパークを発展的にやっていくということは必要だと思うんですよ。観光協会に市の職員を派遣するというんじゃなくて、市の職員がそこに駐在するような形の対応というのはできないもんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君..)

現在、ジオパークの世界認定を受けてから、こんなことを言っておかしいんですが、1年たっていない。そういった中で、私どもはまだまだ市内の連携というものも必要なわけです。事務的にも例えば私ども企画財政だとか、あるいは農林水産課だとか、あるいは文化だとか、そういったものがしっかり連携をしていくと。

そういった中で、今、他市町村では観光だとか、あるいは商業関係が、まちの中心部に事務所を置いてるといった市町村もございます。そういった中で、今後そういった方向はもうしばらく時間をいただいた中で、そういうふうなものが市の観光行政をしていくのに適切かどうかといったことも含めて検討させていただきたいと思いますが、今現状では市内の連携を優先させて、市内にいたいという形でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の答弁はおかしいでしょう。市内の連携をするために市内にいる。現場に出ないという話をしているんです、それじゃ。現場へ出て、その空気を市内に伝えて市内連携を図らなかつたら、いい行政なんかできないでしょう。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕

○総務企画部長(織田義夫君..)

お答えを申し上げます。

観光協会のところ、なおかつそこに市の職員を配置すればということでもあります。しかしながら、今現在は市の職員を配置しますと、その辺の観光案内所等が、どちらかといいますと市が主体となります。当然、最終的には市の方の関係もございませうけども、今現在そういうことで観光協会がやってる仕事を市がなりかわって主体になるというのはいましばらく、もう少しやめたいと思っております。やはり民間団体の方を、さきに優先をさせてもらいたいということでもあります。そういったことで、ことしにつきましては、今、観光案内所につきましては、当初は市の職員は配置をしないということで今予定をしています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

考え方、やり方はいろいろあるんで、ただ、やはり大事なのは民間団体と、市の行政現場が連携を図っていくことですよね、市長。ですから、やってみて悪かつたら変えていきゃいいと、そういうやり方もあると思うんですよ。それを念頭に置いて、年度当初の人員配置で難しいところがあるかもしれませんが、やはり方法として1つあるんだということを念頭に置いてもらわないと、今、部長が答弁されたような内容はちょっと不十分ですよ。民間優先、今スタートラインは、そんなことを言ってもらえないんですよ。できることを何でもやっていかなかったら、うまく回っていかないわけですよ。市長、いかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

今早急に、4月からという形になっておるわけでございまして、今のスペースでは足りないというのは、もうご承知のとおりだと思っておるわけでございまして早急に立ち上げたい。そういう中において、人員配置の部分についてであるわけでございますが、基本的には今ジオパークについては市民の皆様方と、また企業の皆様方、商工会議所、商工会、いろんな方々が入っていただいて今協議会をつくってるわけでございますので、協議会でもっていこうという形になっておるわけあります。

しかしながら指定になって半年、そしてまた、さらにいろいろ今詰めてくる中においては、今、議員もいみじくもいろいろとご提言いただきましたように、他のところでやってる施設もあるわけでございまして、どれが一番やはり糸魚川ジオパークにいいのかということを見ていく中においては、今言った方向性もあるのかもしれませんが。

ただ、今いろいろ進める中において、今あるジオパーク推進室については、課長が答弁したのは、恐らくそのようなことで答弁したのだらうと思うわけでございますが、ジオパーク推進室をそこへもっていくということではないということで、その説明をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

観光案内でも例えば看板なんかもあるわけですけど、看板の設置1つにしても、観光事業の最前線にいる人の意見は大事だと思うんですよ。今回も看板設置の事業をやっていると思いますが、やはりその観光にかかわっている人たちの意見を取り入れながら、どこに、どんな看板を設置していくのか1つにしても、やっぱり協議していかなければならない。それが別々のところにいると、なかなかそれがうまくいかないようなところもあって、やはりあらゆる意味で連携をうまくしていかないと、コミュニケーションを常にとっていくということでも考えたときに、やはりひとつそういう場があった方がいいんじゃないかなということですので、ぜひこれからも検討してもらいたいと思います。

看板設置についての考えですが、ハード面の整備について、民間との連携をどう図っていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

新年度、看板の設置ということにつきましては、とりあえずジオパーク絡みのものにつきましては、ジオサイトに関する説明板、あるいは標識板といった形で、どちらかというとな学術的な説明の板になっております。

ただ、観光的に案内する観光の案内板もつくるということでございますが、今現在では市の方で専門業者等へのデザインの発注をしとるわけでございます。そういった中で、今まではどちらかというとな市の考え方をつけてきたといった中で、民間の方々の意見というのはいろいろな席上では聞いてはおりますが、その看板制作について取り入れてるという事実はありませんので、そういった意見がもし必要だということであれば、設置につきましても今後いろいろなご意見をちょうだいしながら、設置をしていくことになるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

0議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕…

○商工観光課長(金子裕彦君..)

観光施設への道路案内誘導看板ということで、主にジオサイトへの誘導といたしまして、本年度、21年度の予算におきまして12基を設置するというので、まだ工事中のものも多々ございますけれども、予定をいたしております。新年度については2基予定をし、新年度予算に計上しておるところでございます。

それらについてはジオサイト等へおいでになる方、駅前の観光案内所での問い合わせ等の内容も参考にお聞かせいただく中で、配置場所等々を決定してきたところでございます。また、デザイン等については統一的なデザインということで専門の業者の提案等を取り入れながら、統一的な看板デザインを取り入れて設置を進めておると。今後もそのような方向で、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

市内事業者や企業向けということですが、民間による資本投下というのは、ある程度採算性が見えなければ、これは無理ですね。そうなるとお客さんが来るのがわかっているならば資本投下できますけど、なかなか先行してはできにくい、こういう厳しい世情ですから。

そういう中で民間の皆さんに頑張ってもらいたいと言っても、その下地づくりはやっぱり市がやっていく。交通システムなんていうのは、まさにその典型ですよ。お客が少なければ、固定費はかけられないから交通システムをつくれぬ。だけど公共交通がなければ、不便であればお客さんは来ない。そうなったときに、初期投資は市が行っていく必要がある。ある一定期間は、思い切った投資が必要であるということが言えるわけですよ。さっき言った民間主体でいくために、市は下がってるなんていう話をしたら、ジオパークは前に進みませんよ。これをどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕…

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

非常に糸魚川市は広範囲にジオサイトがあるわけですので、議員ご指摘のような状況が生まれるわけであります。しかし、ジオパークの理念的にとらえますと、やはりその自然資源を十分満喫できる。そしてその自然をどのように受けとめながら、そして地域の人たちとどのように携わっていくか、かかわっていくか、それがもてなしになり、感激になるんだらうという形になるわけですのでございます。

そういうことを考えますと、まずどういう形でいくか。今24のジオサイト、そういったところで一番メインになるというか、地域と一体となってそういうジオサイトをどのようにもっていくかということも含めまして、その辺のまとめ方、そしてどのように提供していただくかというのは、先になるのではないかなと思っております。

それで先ほどの冒頭の答弁でも述べさせていただいたように、まずプロも含む第二者に、どのような方向でこの糸魚川のジオパークを進めていくかというの、いろいろとご意見を賜るものをいただきたい。そして、それによって地域の皆様方と、そしてどのように進めていくかという形にもっていききたいという形であるわけであります。そして私といたしましては、より長く滞在していただきたい。そして多くの自然資源を満喫していただきたいということになりますと、やはり長期滞在型の感覚を持って、我々の考え方を描いていただきたいという気持ちでおるわけであります。

それには私といたしましては、職員にも言っておるんでありますが、その1つの例であるわけでありますが、四国の遍路的なような形の中で、私は通称ジオ遍路と言っておるわけでありますが、やはり基本は歩いて見てもらうのが一番地域を知り、地域の人たちと接するんだらうという部分であるわけであります。そういったものをベースにしながら、今、議員ご指摘のようなアクセスなり、そういったものを、そして交通網の整備というの、その上にかかってくるんだらうと思っておるわけであります。でありますから、基本はやはり歩いて見てもらうのをベースにしながら、そういった方向にもっていききたいと思っておるわけであります。そういった計画をある程度主体にしながら、描かせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

24のサイトそれぞれの場所で歩くというのは、これはいいと思いますね、すぐ近くのまた別のサイト。しかし例えば糸魚川駅に来て、小滝のヒスイ峡に行きたいけど行けませんと。そこが問題になってくるわけですよ。それに対して、例えば今ある民間の交通に何かの助成をする中で仕組みを

つくっていくとかということが必要であろうと。バス路線を全部に張りめぐらすことだけではなくて、やはりいろんなことを考えてやっていかなきゃいけない。市長が言われるジオ遍路という考え方はいいと思いますよ。ただ、それはやはり部分的にやっていかないと、ある程度のエリアに分けてやっていかないと、糸魚川の駅からそれをというのは、それじゃ、もう来れる人は限られてしまいます。体の強い人ばかりじゃないわけですからね、そうじゃない人にも来てもらわなきゃいけない。その辺でやっぱり考え方は一緒だと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

そのとおりだと思っとなるわけでありますが、しかし基本は基本として作り、そしていろんな方々もおいでいただけるようなものも、充実していかなくてはいけないのだからと思っとなるわけでございまして、まず、これは世界64のジオパークでございましょうか、糸魚川も含むわけでございますが、やり方があるわけでございまして、やはり我々糸魚川の切り口で、ほかのところでやるから、やらないからということではなくて、糸魚川の切り口として、糸魚川のやはりジオパークとして、個性のある特徴のあるものを出していきたいという形で考えておるわけでありまして。そのようなことで大勢の方がおいでいただける、そして楽しんでいただけるものはどういうものがあるか。そしてより多くの自然を知っていただいて、そして多くの人たちと接していただく方法を、やはり一番基本にしていかなくてはいけないんだろうと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕..

○商工観光課長(金子裕彦君)

ジオサイトをめぐる方法については、今ほど市長が申し上げたところが基本的なところかと思っておりますけれども、24のジオサイト、いろんなコースがあります。その中で、特に駅前の観案内所等に問い合わせの多いというような施設もございまして、例えば小滝のヒスイ峡につきましては、本年度も運行してまいりましたけれども、小滝駅からヒスイ峡、高浪の池をめぐるシャトルカ

一を5月から10月までの間、土曜・日曜・祝日について運行し、ご利用いただけるようになっております。まだまだPRが若干足りないせいか、利用者が少ない面もございますけれども、次年度も予算計上をして、この取り組みを進めていきたいと思っております。

また、このほかには現在利用しやすい低額の料金で、ジオサイトのコースをめぐるタクシーを運行できないかというようなことで、タクシー会社と協議、調整はさせていただいておるところでございます。次年度に向かって早い時期に、ご協力いただけるような形をつくっていきたく。市としても、どういうところをご協力申し上げればいいのかというのを、あわせてタクシー会社と相談をしてまいりたいと、現在もそのような調整をしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

基本的なことになりますけど、例えば2月2日に行われたジオパーク勉強会の7回目、みんなでジオパークを盛り上げようという会があったんです。これは100名ぐらいの方が集まったんですね。これは商業者向けのセミナーだったわけですが、商店街が休みの火曜日に設定しても、初めはなかなか希望者が出てこなかった。それを粘り強く声かけした中で、それだけの人が集まった。これはひとつの市民に対する大きい啓発になっているだろうと。

1つ目には、やはり手間をかけて声をかけあったと、これ自体がひとつの啓発。それから集まって話を聞いたと、2つ目の効果ということになります。このように熱意に裏づけされた、粘り強い取り組みというのが必要になってくるわけですよ。市民に対して啓発をしていく、地域を盛り上げていくと。この役割を、だれが担っていくのかということなんです。やはり地域づくり、まちづくりには、中心になるばかが必要だと。ばかが2人いたらぐあい悪いんだという話は、この間、朝日町で聞いてきたわけですが、そういう人が出てくることは期待していかなきゃいけないけど、今後の取り組みとして、やはりそういう何か熱意のかたまりみたいなものをつくっていかなきゃいけない。これはどういうふうに考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕..

○企画財政課長(吉岡正史君..)

今おっしゃるとおりだと思っております。私ども行政だけでは、当然人的にも資金的にも非常に限界があります。そういった中で私どもは、今ジオパークの推進については、ジオパーク協議会というものをつくっております。そういった中で各団体、あるいは業界の代表者の方々が参加してるわけですので、その中でこういった方法が一番適切なのか。そういったものを、今後も協議をしていかなければならないと思っております。

ただ、今具体的に、ここだというものは持っていませんが、基本的には私ども組織的に強くなれば、観光協会というものを念頭に置いとるんですけれども、まだまだ十分な力というわけではないので、今後もこういった方法がいいのか検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その意味で、今年度取り組んできた地方の元気再生事業のサテライトオフィスというところをかたちづけていた、熱心な市民の会の会長さんの久保さんをはじめとした人たちが、やはりその流れをつくっていくだろうと思うんですね。それが終わって、サテライトオフィスがなくなって、新しいところに移ったときに、その流れを阻害しないように、より加速する形で移行していかなくちゃいけないということだと思っておりますが、それはしっかり考え方としてまとまっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君..)

非常にボランティアの方々に、私もサテライトオフィスに時々行かさせていただきまして、いろいろ情報を聞かさせていただきました。非常に糸魚川市のジオパークを通じた観光といったものに、熱意を持っておられます。そういった方々の意欲とか知識とか、そういったものを生かせるような形で、そういうような人たちが、できるか、できんかわかりませんが、ボランティアガイドだとか、そういった方々と一緒になって連携して、民間の力を発揮できるように、行政もその体制づくり、環境づくりというものを考えていかなければならないと思っておりますけども、具体的に、じゃあどうするかということについては、今後の課題だというふうに私は思っておりますし、今すぐできると断言できる状況ではありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

〔副市長本間政一君登壇〕

○本間副市長。

これまでもいろんな協議会をつくつたり、あるいは市民の会ができたり、あるいは地域の観光協会、商工会、あるいは色んな団体が出て、色んな様々な分野でそれぞれ応援を頂いて、今日まできとるわけでありまして。これらをしっかり束ねるのが行政だと思つとるわけでありまして、それらの力をうまく結集しながら、この事業を広めていくというのを中心に考えていかなきゃならんと思つていますので、そういう点では、いろいろさまざまなところの集約をし、その方向をどうやって行政が出していくかということをしっかり協議しながら、進めてまいりたいというふうに考えております。

今までもサテライト、あるいは各種守る会、あるいはボランティアの方からは、それぞれ精力的に取り組んできた結果が、今のような状況になつとるんだらうと思つています。一層これらをまとめる中で、このジオパークというものを糸魚川に定着をさせていきたいという考えでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

流れを加速するように、仕組みが変わると流れがとまっちゃうんで、そこがちょっと気になるとこなんで、よろしくお願いします。

市外に向けてのPRですが、やはりどこの段階で、どういう宣伝をするかというのが大事だと思うんですけど、やはりかなり宣伝費をかけなきゃだめだと思うんですよ、テレビでのコマーシャルも含めて。例えばジオパーク大使の高橋竹山さんや、フリーアナウンサーの伊藤聡子さんとか、その辺をうまく協力してもらって、やっていくということも考えていかなければいけないと思うんですが、何か考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

今ほどジオパーク大使の3名の方の新年度での協力というお話でございますけども、今はとりあえず8月の日本ジオパーク糸魚川大会といったところに、今、伊藤さんを通じまして、その関係の番組といいますか、出演をされてる方を大会の中で協力をいただいて、推進大会を盛り上げたいというふうに考えておりますし、また、高橋竹山さんにつきましても、その中で盛り上げていただく力を発揮していただきたいというふうに考えています。

また、市外へのPRにつきましても、そういったジオパーク大使の方々に、適切な情報を提供することによってメディア、あるいは国民の方々に情報を伝えていきたいし、また、国の機関へも私どもの方からいろいろ支援してもらいたいものを提案する中で、ジオパークといったものを国の施策の中に根づいていただくというか、広めていただくといったものにも、力を注いでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

国内のみならず、国外では香港ジオパークと糸魚川ジオパーク協議会が提携したということです。国際交流の切り口にしていかなきゃいけない。ほかにもいろいろと、市長さんもドイツまで行かれたこともあって、いろんなことが出てくるんじゃないかと思うんですが、ほかにそのような切り口というのは今何かありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長

(米田徹君)

お答えいたします。

やはりPR効果というのを、非常に評価していかなくちゃいけないわけでありますので、そういっ

たところに力を注がなくてはいけないととらえております。

そういう中で香港ジオパークと姉妹提携をさせていただきましたし、また香港ジオパークと姉妹提携をしているところと、またつながっていくことも大事だと思っとなるわけでございますが、市内の普及啓発もそうでございますが、市外もそう、全国もそう、そしてアジア、世界へとやはり、まずここが最初ということではなくて、すべて同時進行で私はやらなくてはいけないと思っております。

そのようなことで、声がかかってくる部分があると思うわけでございますが、そういったところとは積極的に連携をとっていきたいと思っております。ただ単に声がかかってきたということではなくて、やはり相手の資質もやはり調べさせていただいて、連携をとっていきのに値するものがあるれば、またそういった形でやっていきたいと思っておりますし、また、今何か台湾からも、このイベントにあわせてお声がかかるところもあるわけでございますが、そういうところはまたちょっと調べさせていただいて、もし連携をとっていけるという形があれば、積極的につなげていきたいと思っておりますし。

また今、これは私が会長を務めさせていただいております、日本ジオパークネットワークがあるわけでございますが、これ等におきましても今そういった方向でいきたいと思っております。と申しますのは、ただ単に日本だけでジオパークというのをやっていける部分ではないと思っております。冒頭にも話をさせていただきましたが、世界の64のネットというのも十分生かさせていただいて、進めていくことも大事だと思っております。

そういったことを地域振興というものにつなげていかなければ、4年後には、やはりまた認定を取り消される部分もあるわけでございますので、この最初の年というのは大切な年というふうにとらえ方で、4年間の間にいろんなところの提携を取りながら広めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

各種民間事業者との連携というのは、大事になってくると思うんですね。今、清涼飲料水のメーカーで、市と災害時の協定を結んでくれたところがあって、そういうところがジオパークの自動販売機をつくってくれている。そういう業者だけじゃなくて、もっといろんな多分野にわたって、そういう協力をしてくれるところを求めていかなければいけないと思うんで、視野を広く持って対応していただきたい。

庁内横断的な連携ですが、例えば今、空き店舗利用で山岸楽器店、それから時計店をかぎてに使ったまちの駅というのをやっていますが、あれにしても一番最初は空き店舗利用だけだったんですけど、これからは糸魚川は何でもかんでもジオパークに絡めてやっていこう。ジオパークでよくして、

糸魚川駅前もよくしようじゃないかという思想から、ジオパーク雁木横町と銘打って始まったわけですね。そういう発想が、職員にもやっぱり必要であると。どんなことでも、やっぱりジオパークに絡めていく。さっき言った清涼飲料水のジオパークの自動販売機にしても売り込みというか、提案があれば、ああ、自動販売機が要るかどうかという観点じゃないところで、判断をしていかなきゃいけないという、やっぱりそういうくせをつけていかなきゃいけない。そこに対する職員の意識改革というのを図っていかなきゃいかんと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕..

○総務企画部長(織田義夫君..)

お答え申し上げます。

ジオパークの庁内体制につきましては、ジオパーク推進庁内会議等でいろんな連絡調整をしております。ただ、やはり職員の中にジオパークを浸透するというのは、アフターファイブ研修等で行っておりますけども、なかなか自分のものとして考えていないという感じを受けております。

そういった点では、これからもどんどん研修会等をやりながらしなきゃならないんですけども、その辺の職員の意識改革、その辺につきましてはもう少しきっちと、ことしが一番大事だということをしちんと職員に認識させたいということで考えております。それにつきましては、今後やはり職員研修も含めまして、そういったことでやりたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

次の職員の意識改革についてにつながっていきますので、そちらでまた絡めていきたいと思いますが、職員の意識改革の必要性ですが、最初に断っておきますが、市長は意欲を持っておられると思うんですよ、やっぱりそれは強く感じますし、それから市の職員はみんな優秀である、少なくとも優秀な方が多いんですね。

しかし意識改革の必要性というのは、ずっと言われているわけですよ。これはやっぱり職員一人一人の問題である前に、組織の問題であるということが言えると思うんですが、この点についてどう認識されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務企画部次長総務課長(田鹿茂樹君..)

お答え申し上げます。

職員一人一人の意識改革、何が一番重要で、何が大切なんだという職員としての意識を常に持ち続けるということは、一番重要なことだと思いますし、組織の中でそれを徹底していくというのが、一番大事なことだと思っておりますが、なかなか下まで浸透していかないという部分も確かにございます。特に施政方針の徹底、さらには市民が主体であるという意識の徹底を、当然、部課長も含めまして組織に徹底し、職員一人一人までそれが徹底できるような組織体制を今後もつくらにやいかんと思っておりますが、それを目標としてやっておるところであります、なかなか現実、前へすきつと進まないというのも事実であるということは我々も認識しております。

今後も組織の中で、しっかりそれが職員一人一人にまで浸透するような努力は、重ねてまいりたいというふうに思っております。〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その意味の先進地事例というのは、僕らも何力所か勉強してきたんですが、例えば埼玉県秩父市や、今回視察した大阪の大阪狭山市においても、民間出身の市長さんが就任時に強力にその必要性を訴えて、その後も一貫して啓発に努めていると。

その大阪狭山市の後に兵庫県の小野市にいじめ防止とICT教育の研修で行つたんですが、何と副市長さんがずっと一緒にいて、まず冒頭説明に立って、まず行政改革について聞いてくださいと自信満々に小野市の行政経営、「現状打破と新たな創造」と題した小野市の取り組みについて熱意あふれる説明をしてくれました。職員はかなわんから、もう早く市長にかわってくれんかと、もう大変で困ると言ってるぐらい厳しく推し進めているそうです。

糸魚川市では、やはり米田市長就任は、合併直後のいろんな問題を抱えているときに就任をされておりますから、その前にもっとやらなきゃいけないことが確かにあつたと思うんですね。これからでも遅くない。やはりいろんな問題が起きた今の現状において、しっかりと意識改革に取り組んでいかなきゃいけないと思うんですが、今紹介したような例と比較して、糸魚川市がこれからどうあるべきか、どう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

本当に今いろんな課題、またいろんな問題がある中において市の仕事、行政の受け持っておる部分というのは、非常に大きいものがあるわけでありまして、そういった職務遂行の中においてもやはり必要なわけでありまして、職員が一体となった職務遂行をしなくちやいけないわけでありまして、なかなかそういった一体となっていない部分が見られるというのも、これは事実であるわけでありまして、そういったところをやはり意識改革という、一つの言葉では簡単に言うんですが、なかなか難しいんですが、その辺を進めていきたいというのが私の考えでありまして、それは今、私といたしましては考え方を1つにまとめていくには、やはりこれも先ほどのご論議いただいたジオパークでもあるわけでありまして、やはりこれによって、この糸魚川の行政の方向が見えてきたのではないかな。そういう中で一体となったものの考え方を、その中で描けるんでないかなというような気持ちもさせていただいているわけでありまして。

今までみたいになかなか、右だ左だという部分があつたかもしれませんが、その将来の方向性というものもそういう中で、行政の職務の姿勢もそういったところで、論議が出される部分があったのではないかなと思っております。と申しますのは、やはり同じ土俵に上がらなければならないわけでありまして、その土俵というものが、今のその中で取り組めるのかなと思っております。

そういう状況でありまして、私も決してもうこれでよしと思ってるわけではございません。まだまだそういったところは、進めていかなくてはいけないわけでありまして。非常に我々といたしましては、前向きな形で取り組まさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先進市事例で言うように、就任当初が本当は最も重要だったんだと思うんですね。合併直後で、なかなかそこにいけなかったという事情があるんですが、これからでも遅くない。

いろいろあって、内部監査に取り組むことになりました。内部監査に取り組むことになったこの時期が、意識改革には最適だというふうに思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務企画部次長総務課長(田鹿茂樹君..)

お答え申し上げます。

内部監査を実施している目的については、何回かご質問いただいて、答弁をさせていただいておりますが、基本的には行政サービスの質の確保の向上、それから職員の意識改革によりまして、職員みずからの能力発揮、最大限の能力発揮、それからミスの防止というのが、内部監査の目的でございますし、これを1年間やらせていただきました。

これを次にどう展開をしていくかが、我々内部監査を実施をしておる担当部局の、これからの課題だと思っておりますが、この時期、さらに先ほども申し上げた組織も含めまして意識改革の徹底を、この内部監査で進めていきたいというふうに思っております。これをまた手法の1つとして、4月以降も続けてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

内部監査に取り組む。しかし内部監査がなぜ必要なのか、基本的に、ということに職員が気づかなければ内部監査の意味がないわけですよ。内部監査の根本となるのは職員の前向きな姿勢、建設的な意欲だと思います。内部監査をやってみて、内部監査の責任部署として、どのように感じていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務企画部次長総務課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

基本的にはことし1年間、よちよち歩きの中で内部監査を実施してきたわけでありましたが、幸い大きなミスは内部監査では見つからず、軽微なミスや、職場の中の連絡体制とか、書類の整理がうまくいってないというようなミスはありましたが、大きな重大なミスにつながるものは、今回なかったのではありませんが、これはたまたま今年がなかったというだけの話でございますし、来年度以降も、もう少しこれを掘りさげて、結果は1年分は出ておりますので、これを評価する中で、次、4月以降どう展開するかということを考えていくということが必要だと思っておりますし、我々としては、内部監査はある意味では1年間やってみた結果、よちよち歩きながら1つの手法の方向へ出てきているという理解はしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今聞いているのは職員の意識改革について聞いているので、職員の前向きな姿勢と建設的な意欲が内部監査の基本だと。内部監査をやってみて、その点についてどうか感じているかって聞いたんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長(田鹿茂樹君)

失礼しました。

内部監査をやってみて、職員の意識徹底という部分については、やっぱり結果、少し徹底されていない部分もあるなということは感じております。これを次の4月以降、どうさらに職員にこの内部監査をやる意義と、それから職員の資質はどう基本的にあるべきかということ、内部監査の中で、さらに職員に徹底するべき必要があるなというのは、内部監査をやった結果、感じたところでございます。

職員の方に効果ということでございますが、まだ現状では末端まで、職員にはなかなか響いてない部分があるというのは認識しております。やっている内容につきましては、監査員が一部の職員と監査をしてるわけでありまして、これがもっと職員全員に内部監査が入るんだという意識徹底を、今後もしていく必要があると思っておりますし、その点はまだまだ、少し浸透はしていない部分があ

るかなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

内部監査の効果云々を聞いたわけではないんですけど、内部監査が1つの意識改革の大きなツールになるということがありますよね。ただし、内部監査に頼って意識改革をしようと思っても、それも無理だと思います。だから、やはりミス防止なんて低いレベルじゃなくて、やはり業務改善していくんだということで、内部監査をやっていく視点にならないとだめだと思いますね。

職員のモチベーションを上げるための現行制度というところですが、公務員の常識だとか、公務員の仕事のやり方というのは、これはある意味大切でしょう。しかし公務員の常識だけで仕事をされたら、糸魚川市の発展はありません。現状維持か、地域間競争に埋没していつてしまう危険性は高い、必ずしもそうだとは言いませんが。この点をやはり認識して、意識改革をしていかなきゃいけないと思うんですが、これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長田鹿茂樹君登壇〕…

○総務企画部次長総務課長(田鹿茂樹君…)

お答え申し上げます。

確かにその視点が重要でございまして、市民の目線でものを見て、いろいろな行政運営をしていくというのが、一番大事なところだと思います。そこら辺の視点も若干欠けている部分もあるかというふうには認識しておりますので、そこら辺を行政側の目線ではなくて市民の皆さんの目線、そこを重要視をする行政運営は必要だというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

現行の仕事の枠を超える仕事は、だれもやりたくないんですね、それで済めばですよ。それじゃ済まんということが認識できたときに、初めて一步踏み出すわけですよ。

先ほど保坂悟議員の質問の答弁を聞いていて、他市の先進事例を、他市が既に取り組んでいる施策に対して、すべてこれから状況を調べて、これから検討します。これから検討はまだいいですよ、これから状況を調べるということを、他市の先進事例があって、そんなことを言ってるようじゃ、そうやって答えて平然としていることに、非常に疑問を感じますよ。悔しくないのかと、そんなに他市に先に行かれて、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

そういった部分も、なきにしもあらずと思っているわけではありますが、しかし財政的な部分、我々はどこまで許せるのか。我々はそれでない違うものもやってるわけでございますので、そういったところも考えているわけでございまして、そういったものがそのものだけではなくて、全体的な中で、どうとらえているかということもとらえる中で検討させてもらっております。先ほどの保坂議員の問題については、そういう形でやらせていただいております。

そういう中で我々といたしましても、これはどうしてもやらなくちやいけない問題という形の中で、やらなくちやいけないんだということでございまして、それ自体、我々はすべてやれるわけではない。そういう中で、より他よりもいい市にもっていきたい、他よりもいい市民サービスをしていきたいというのを原則に考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

私が言ってるのは、先進地事例を全部やれと言ってるんじゃないんですよ。要するに状況ぐらいはもう全部把握していて、ただ、糸魚川市は検討した結果、今まだこういう要件が不足しているので、もうしばらく様子を見たいとかというレベルだったらいいいという話をしてるんですね。だから、

もう全然それは違う話ですよ。ですから、やはり意識を改革していかないと、そういう他市におくれをとっていることも悔しいと思わないような形で、仕事を進めていくしかないということになります。

日本一の子どもを育てるについて伺います。

次世代育成支援行動計画では、日本一の子どもを育てる。平成22年度の予算編成に当たっての重点施策では、日本一の子どもづくりとなっていますね。これは意識的に表現を変えているのか、たまたま違う言葉になったのか。この辺は、どう解釈したらいいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕..

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

意識的に変えているわけではございません。前後のつながり等でそういうふうな表記になって、若干の違いがあつたと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

これは同じで通していかなきゃ、ぐあい悪いでしょう。やはりちょっとした意識の違いで、言葉の表現が変わるようではだめだと思いますよ。共通認識の話ですが、今検討中の一貫教育方針の中では、言葉として出てくるようですけど、次世代育成支援行動計画の中では、「あすの糸魚川を担う日本一の子どもを育てる」と言ってますが、それがなかなか計画の中に読み取れない。何でかという、その言葉の意味といいますか、構想が明らかにならないからなんです。どうつながっているかわからない。

全然例は違いますが、大野の最終処分場の問題が起きて議会の特別委員会で集約事項がおきた。その項目に対して応急対策工事は、この1番の項目に対して、このことをやります。2番の要求に対して、このことをやりますというのがはっきりして、非常にわかりやすくなっている。やっぱりそういうことをやっていかないと、どこかぼけた形で進んでいくというふうに思うんですよ。

だからキャッチフレーズはキャッチフレーズ、前回の質問のときはキャッチフレーズ的なものだ

と思いますという話があつたんですけど、やはりその意味合いを早い時期ではつきりして、だれが見ても施策として、こういう方向性だなというふうにわかるようにしていかなきゃいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕..

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

庁内の共通認識ということでご質問いただきました。

まだご存じのように一貫教育方針は完成版ではございません。次世代行動支援計画の方も間もなくでき上がるという状況でございます。そういった意味で、庁内での連携がまだ十分ではないなということをおももわかっております。

部課長会議で共通認識するとともに、これは最終的には市民の皆さん全員にご理解をいただかなきゃいけない、ご協力をいただかなきゃいけないという視点に立っておりますので、その先頭に立つやはり行政の職員全員がこれをしっかりと理解して、その方向に向かってもらわないと、日本一の子どもづくりということは、まずできるわけではないわけですので、そういった意味で先ほど来出ておりますが、アフターファイブの研修等を利用しながら、職員にも周知を図っていきたくと、こんなふうを考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり.. 〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

基本的に糸魚川市が言う「日本一の子どもを育てる」の共通認識というのを、市の職員全員が持つ、また市民が持って、なおかつ職員も市民も一人一人が、その上に自分の子育てに対する熱意、子どもたちを見守っていく温かい目というのをもっていかないと、本当の意味で日本一の子どもを育てる糸魚川市には、ならないだろうということだと思っんですね。

やはり一貫教育方針の中にも市長が施政方針の中で言われた言葉が挙がっていると思うんですが、それを補完するようなやはり考え方というのをまたプラスしていかないと、わかりにくいだろうというふうに思います。

先日、子育て支援モデル地区の須沢地区において、子育て支援の懇談会が開催されました。その

席上でも言わせてもらいましたが、皆さんの議論を聞いていて、ますます日本一の子どもを育てるといのは何かと、これを明らかにするやっぱり必要性を感じたわけですね。

私なりに言えば、日本一の子どもを育てるといのは、子どもを大切にする日本一の思いと、子育てに対する日本一の熱意をもって、日本一の子育ての仕組みづくりをすることだというふうな言い方もできるだろう。私なりの言い方ですよ。だから市の方針に僕のその思いを載せて、また活動していくということが大事になっていくだろうというふうに思います。このようなことで、ひとつ言葉だけじゃなくて、それを補完するところまで、何か解説をしてほしいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕..

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

議員のご指摘、大変ありがとうございます。

一貫教育方針の中には、基本理念というのを今回示させていただいております。これが市長が今回施政方針の中で述べられたことを、端的にまとめているというふうに私どもは考えています。

1つは、健康、心、学力のバランスのとれた子どもを育てます。

2つ目に、一人一人の個性を生かして、その個性を伸ばし、子どもの夢を育てます。

3つ目に、ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てます。

4つ目に、家庭、園。学校、地域が力を合わせて、糸魚川の子どもを育てますというふうにしてあります。

この主語は、家庭であり、園・学校であり、地域であり、私はという主語になっていただきたいと、こんなふうに考えております。今ほど議員からご指摘いただいた、それに付随する思いもぜひ職員にも伝えていきたいですし、市民の皆さんにも伝えていきたいと、こんなふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その点、楽しみにして待っていますので、早く示していただきたいと。

今後の教育のてこ入れですが、日本一の子どもを育てるには、やはり予算が必要ですよね。予算をかけなきゃ行動できない。1つ行動するにはエネルギーと予算が要ります。そういう意味で今後、教育費の予算の増強というのが図られていかなければいけないだろう、必然的にそうなると思うんです。先に予算ありきじゃなくてね、行動することによって予算が増強されていくと。

小野市では市長の就任後10年間で、教育費は3.6倍に伸びたということです。さあ、金かかります。これについてどう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

ただいま議員がご指摘したとおり、やはり重点施策にお金がかかるというのは当然のことです。したがって、今後も選択と集中をすることによって、より糸魚川市が伸びていくといったものに、重点的に予算配分をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

教育体制も強化しなければいけません。就学前の児童の教育というのは、ある意味、人間の基本をつくる非常に大事な時期だと。学力の問題というのは小中のことばかり言っていますが、実際には幼保の段階が非常に重要だと。その現場で保育士さんは、臨時の割合が7対3、何と臨時が7なんです、正職員が3、これではいい教育ができない。計画的にという話がありましたけど、もうちょっと具体的に答えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長結城一也君登壇〕

○福祉事務所長(結城一也君)

お答えいたします。

保育士の数というのは議員さんもお存じだと思いますが、入ってくる園児の年齢、それから人数によって変動がございます。そちら等を考えまして、今現在116人必要じゃないかなというふうに、うちの方では平成22年4月1日現在考えております。

そのうち今ほど言われましたように、確かに正職員の数は少ないわけでございます。ただ、計画的にじゃあどうするかということにつきましては、計画的にということしかちょっと。来年3人ふやして、次の年に3人という数字については、ご容赦いただきたいと思いますが、基本的には5対5、最低限でも臨時と正職員の差が5対5になるぐらいまでには、ふやしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

産体なんかのこともありますから、臨時職員ゼロにはならんと思います。5対5で、いい教育できますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君…)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕…

○総務企画部長(織田義夫君…)

お答えを申し上げます。

保育士の方が臨時と正職の率が逆転しておるということで、今、私らの方もできるだけ保育士をこれからふやそうということで考えております。この3月に職員は15人退職をします。4月1日の新採用につきましては、今は3名であります。うち2名を保育士にしたということであります。

したがいまして、今職員全体では減少しておりますけども、その中でも一般行政職は一応減っておりますけども、保育士だけは減らさない、逆にふやそうということで今対応してるところであります。また子どもの数、それから保育士の退職等の関係もございますので、来年何名、その次何名ということは、なかなか計算できないところでもありますけども、できるだけ保育士はふやしていきたいということで今考えているということだけ、ご理解願いたいと思っております。…

○13番(伊藤文博君)

5対5でいいかと聞いたんだけど。...

○総務企画部長(織田義夫君)

今現在の目標としては5対5で、日標とさせてもらいたいと思っております。そこまでいってから、また次の段階ということであります。当面は5対5を目指したいという福祉事務所長の考え方について、私どももそのような形で対応したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕...

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その次の段階があるという織田部長の言葉を信用して、これ以上言いませんわ。

ただ、臨時の保育士が多いような現状では、志のある若い人が地元に戻ってきませんよ。あすの糸魚川を担う日本一の子どもを育てると言いながら、自分が育った糸魚川市の教育現場に戻ってこようとする人を拒むような制度では、ちょっと本末転倒ですよ。やはり、これからよく検討してもらいたいと思います。

教育のICT化効果について伺います。

今回の整備については、1校1台の電子黒板、これで果たしてICT効果が出るかどうか、どう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕...

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

理想を言えば、すべての学級にすべての機械が入るのが理想でございます。そうすれば気兼ねなく、いつでも使えるという状況で、最大の効果が得られるというふうに考えておりますが、予算との関係もございますので、まず手始めに1台ということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕...

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

貴重な第一歩ということにしておきましょう。

ただ、小野市ではパソコン、それからプロジェクター、それから実物投影機、原稿カメラという言い方をしますけど、この組み合わせで、平成23年度までに全教室の配備を行うそうです。小野市は非常に教育の先進地ですので、イギリスから視察に来た視察団が授業を見て、今の段階の前にチョーク・アンド・トーク、懐かしいと言って笑っていたそうですよ。もうそういう時代じゃないと、それでは教育効果が上がらないと言われて奮起したというのが1つあるそうです。

今後計画的に、その効果を検証しながら進めていかなきゃいけないと思うんですが、考え方として方向性でいいんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

竹田教育長。〔教育長竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

チョーク・アンド・トーク、非常に今耳が痛かったです。おれもそうやってやってきたのかなという感じです。やはり1つ1つ踏み台を上がっていくということが大事な。今、市の予算の中で許される部分はここまじかなという気もしますので、欲張らずに、とにかく検証しながら少しでもふやしていきたいと、このように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

いきなり全教室配備、こんなん無理な話ですよ。ただ、今せつかく1校1台配備になったのであれば、例えば重点校を決めて、そこにもう1台、2台配備することによって、本当に教育効果を検証していく、そして今後の施策につなげていくというような取り組みが、必要になってくるだろうというふうに思うんですが、どうですか、考えてみませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕..

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

今回整備するのは、基本的には各学校1台なのですが、児童生徒数の多い学校、学級数が多いところについては2台というところもございます。

今ほど重点校を決めて、その学校にもっとたくさんの機械を入れてモデルケースでやってというご指摘だろうと思います。予算との兼ね合いもございますのであれなのですが、今のところ考えているのは、今非常に少ない台数ではございますが、その中でも全部の教員が、いきなり使い出すということは、まず考えられないだろうというふうに思っています。まず学校のリーダー的な教員が、それを主になって使って、周りに広めていくというようなケースだろうというふうにとらえています。そこに私どもも協力しながら、モデル校という形には指定しませんけれども、取り組みを進めていきたいというふうに思っています。

なお、今年度11月に、上越市で日本教育工学協会の研究会、全国大会がございます。そこで小中1校ずつの教員が、電子黒板等を使ったICTの実践発表をする予定でございます。市の学校教育研究会の視聴覚部会と市の教育委員会が協力しながら、その発表者、あるいは発表する学校に全面的に協力をしながら、リーダー的な存在というのを育てていきたいと、こんなふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

1校1台しかない中では、また2台程度しかない中では、そういう取り組みしかないんですね。やっぱりそこから将来を推し量っていく。あくまでも日本一の子どもを育てるという趣旨に基づいて考えたとき、やっぱりそこまで言ってる糸魚川市が他市並みの教育の取り組みではだめだと。

ICT化によって非常に効果が高いのであれば、それに対して本気でやっぱり目を向けて取り組んでいくと。せつかく1校1台配置されたら、これを契機にもうステップアップを図っていくというような取り組みをお願いしたいと思います。

一般質問を終わります。